

2026「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

< 中学校1年生 > 作文課題「私のこれが自慢できるところ」

1-①

「一筆に込める私の努力」

私が胸を張って自慢できること、それは「習字」です。きっかけは、姉が楽しそうに筆を走らせる姿への憧れでした。しかし、いざ始めて見ると、きれいな字を書くことは、決して簡単ではありませんでした。

私が日々の練習で格闘していることは、2つあります。一つ目は「お手本を見続けること」です。少し書くと自分のくせが出てしまうため、慢心せず一画一画を謙虚に見つめています。二つ目は「なぞり書き」の徹底です。先生の筆の動きや墨の濃淡を体に染み込ませ、一気に書き上げる「真似ては書く」ことの繰り返しです。

この地道な経験から「継続は力なり」の本当の意味を知りました。どんなに小さな努力でも、諦めずに積み重ねた先にしか、美しい成果は生まれません。中学生になるこれからは、憧れの「行書」に挑戦をしていきます。姉のような流れるように美しい字を目指し、これからも、たゆまぬ努力を続けていきます。

1-②

「日々の地道な努力の積み重ねで得た“得意なこと”」

僕の得意なことは、そろばんと暗算だ。1年生からそろばん教室に通い始めて、苦手であった計算が得意なことになった。

僕が小学校1年生の頃、計算が苦手だった。一題を解くのに時間もかかった。そんな時、お母さんから「そろばん教室に通ってみない。」と相談された。仲のよい幼馴染みがいたし、計算を得意にしたいと思ったので、そろばん教室に通い始めた。最初の頃は簡単な計算も難しく感じたけど、先生に詳しく分かりやすく教えてもらって、段々とそろばんができるようになり、問題も難しくなってきた。だが、休まず教室に通い続けて練習を積み重ねた。すると、難しい問題もスラスラ解けるようになった。日々の地道な努力の積み重ねで、そろばんは初段、暗算は準3段を取ることができて、今では計算が得意なことになった。

そろばんを通して計算力、集中力が培われたのと同時に、努力の積み重ねの大切さも学べた。将来は、計算力を活かして活躍したい。

1-③

「今、決めたこと」

「はあー、今日もか」私は週に3回、習い事をしている。火曜日にはピアノ、木曜日にはバドミントン、金曜日には英語。それでもちゃんと休まず行っているし、ずっと続けているところが私の自慢だと思う。

習い事がある日には、いつも面倒くさいし、もう1週間が経ったのかと、だるく感じたり、時が経つのが早いと感じたりする。友達に誘われて始めた習い事だが、友達はみんな次々とやめていってしまった。そのたびに私もやめたい、疲れたと思う。習い事のレベルがあり、追いつけない、向いていない、「無理」と大声で泣き叫んだ日もあった。泣いて泣いて泣きまくった。

それでも、私はそれに負けないで、ふんばっている。今、頑張っていることは、絶対役立つと信じている。ピアノや英語は検定試験もちゃんと受ける。「これから、何があってもあきらめないでやめない」と、今決めた。

< 中学校2年生 > 作文課題「最近の話題から」

2-①

「“全力”の経験」

何かに対して全力で頑張りたいと思う。そんな経験をしたのは初めてだった。私はバレー部に所属している。しかし元もとスポーツはあまり得意ではなく、楽しいと思うこともなかった。最近足への痛みにも悩まされ、ユニフォームももらえず、いつの間にか部活は憂鬱なものになっていた。

そうして迎えた先日の総体。観客席で応援することが私の仕事だった。そして試合は3セットマッチの3セット目終盤。相手とは4点差がついている。だが、こんな状況でも先輩たちは声を掛け合って、前を向き続けている。その姿に強く胸を打たれた。この人達を全力で応援したいと本気で思った。恥ずかしさなんてものはかなぐり捨てて、全力で応援した。勝ってほしい。それしか私の頭の中にはなかった。結果は逆転勝利。その時の先輩は何よりもかつこよかった。

今度から部活を全力で頑張ろうと決心した。来年は応援される側になるために。

2-②

「人と熊の共存」

近年、テレビで熊出没のニュースを見ることが増えている。熊が人里に出没するのは、山と人との関係の変化による。

理由は3つある。一つ目は山の食料不足で、どんぐりなどの木の実が不作の年には十分な餌を得られないこと。二つ目は里山の手入れをする人が減り、熊が人里を人の領域と認識しにくくなったこと。三つ目は人里の食べ物で、畑の作物やゴミ、果物などが容易に得られ、一度味を覚えるとくり返し出没することである。さらに気候変動などにより、餌の豊凶の差が大きくなっていることも影響している。

私たちにできることは、熊の餌となるゴミや果物を放置しないこと、手入れをして人里と山の境界をはっきりさせること、朝夕に山へ近づかないなど、遭遇を避ける行動が重要だ。熊が人里に来るのは、熊が悪いからではなく、山と人間との関係が変わったからだ。熊を排除するのではなく、人と熊が距離を保ちながら共存できる環境作りが求められる。

2-③

「見ていたのに、見ていなかった」

私には、5年間描き続けているモデルがいる。それは、自由研究をきっかけに我が家へやって来た2匹のカエルだ。最近、皮膚の色が褐色から緑を帯びてきた。その変化に気づいた時、私は毎日のように見ていたつもりでも、本当はよく観察できていなかったことに気づかされた。

暖かくなり活発になった彼らは、軽やかに跳ねたり、じっと周囲を見つめたりと、様々な表情を見せてくれる。絵を描く時、以前は形を正確に描くことばかりを意識していた。しかし、その生き物らしさや生命の力強さを感じ取ることも大切なのだと思うようになった。何気ない表情や動きの中にも、その生き物だけの魅力があるからだ。

彼らは、私に観察することの奥深さと、小さな変化に目を向けることの面白さを教えてくれた。将来は、この経験を生かし、見過ごされがちな魅力や生命の輝きを伝えられる絵を描きたい。それが私の夢である。

<中学校3年生>

作文課題「AIとは異なる人間らしい豊かな心を育むために、

どんな高校生活を送ることが大切か」

3-①

「人間が生きる価値」

公式戦、一度も思うようなプレーが出来なかった。出来ないまま終わった部活動は、無意味だったのか。

AIに聞けば、最適解など一瞬で出せる。勝ち方、練習メニューだって、苦勞せず導き出せる。全部成功するもの

が模範なのかもしれない。それでも、模範を求めた部活ではないことを、身に染みて感じた。うまくいかないからこそ、話し合っただけで繰り返し、できることが増えていった。そこまでの過程に、人間が生きている意味がある。勉強も同じ。調べれば模範解答なんて、いくらでもわかる。それでも、AIが存在する今、人間が学び続ける理由は、その過程にこそ人間らしさがあるからではないのか。

結果だけを見れば、AIの方が正解に近い。それでも人間らしく生きようとするのは、AIにはない失敗し、挑戦する過程があるからではないか。正解に近いものではなく、過程にこそ意味を見い出せる生き方をしていきたい。

3-② 「AIと豊かな心」

近年、AIを中心とするICTの進化によって、私たちの生活はとても便利になっている。分からないことをすぐに調べることが出来、学習にも役立っている。しかし、AIが示す情報の中には、誤った情報や嘘の情報が含まれていることもあり、それをそのまま信じてしまう危険性もある。

私は、人間らしい豊かな心を育むためには、自分で考え判断する力を身に付けることが大切だと考える。実際に、インターネットで調べた内容が、教科書や先生の説明と違っていたことがあった。この経験から、一つの情報だけを信じて、自分で確かめることの大切さを学んだ。

高校生活では、AIやスマホを便利な道具として活用しながらも、頼りすぎないようにしたい。また、友達や先生との交流や学校行事を大切にしていきたい。そのような高校生活を送ることで、人間らしい豊かな心を育むことが出来ると考える。

3-③ 「便利な時代だからこそ」

近年、AIをはじめとするICTの発達によって、私たちの生活はとても便利になった。分からないことを調べられたり、遠くの人とも簡単に連絡を取れたりするなど、多くのメリットがある。しかし、その一方で自分で考える力や人と関わる力が弱くなってしまう可能性もある。

私は剣道部に所属している。部活動では、相手の動きを見て自分で判断し、どう行動するか考えなければならない。また、仲間や先生と協力しながら稽古をすることで、思いやる気持ちや礼儀の大切さも学んできた。これらは、AIだけでは身に付けることが難しい力だと思う。

私は、豊かな心を育むためには、勉強や部活動、友人との関わりを大切に、多くの経験を積むことが重要だと考える。便利な技術を上手に活用しながらも、自分で考え行動し、人と直接関わる充実した高校生活を送っていきたい。

3-④ 「AIが進化する中で大切なことは？」

私は、近年ICTが進化する中で、メリットもあればデメリットもあると気づいた。そこで私は、ICTが進化する中で、どんな高校生活を送ることが大切なのかを考えた。

私達の身近でも、ICTの進化を感じる機会が増えた。授業では、黒板がテレビに代わり、生徒一人ひとりにタブレットが配布されるなど学校での変化や、友達関係でもスマホなどで楽に会話が出来るようになった。その一方で、会話中での誤解や喧嘩につながることも増えてしまった。

私はこれまで、友達との会話や学校生活の中で、相手の気持ちを考えて行動する大切さを学んできた。高校生活でも、スマホに頼りすぎず、友達や家族との関わりを大切に、自分で考え、「AIに使われる人」ではなく、「AIを使いこなす、自分で判断できる人」になりたい。そして、人との関わり方を大切に、充実した高校生活を送りたいと考えた。

3-⑤

「AIの利用」

最近、AIの技術が発達し、学生の多くがAIを使用している。AIは、私達に的確なアドバイスや知りたい情報を簡潔に教えてくれる。しかし、情報の全てが合っているという訳ではなく、間違っている時がある。私はAIに「自分の考えた文章を参考に何字にまとめて」と要求した。しかし、実際に数えてみたところ、要求した字数に足りていなかったことがあった。最終的には、自分で修正することが多かった。

これらを踏まえ、思考判断力、表現力を高めるための高校生活を送るには、友達とも関わりながら、AIをうまく使っていくのが大切だ。友達と関わると、思考判断力を磨くことが出来る。AIでは、表現力を磨くことが出来る。2つを組み合わせうまく生活していくことで、充実した高校生活を送ることが出来るはずだ。人間らしい豊かな心を育むための高校生活は、AIや人間との関わりをうまく利用していくことが大切である。

3-⑥

「AI時代に大切なこと」

AIを中心とするICTの進化によって、私達の生活はより便利で豊かになった。高度なデータ活用や世界中の人たちと喋ることが出来るコミュニケーションの円滑化は、大きな利点である。しかし、その一方でスマホ依存や思考判断力・表現力の低下が心配されている。

私は中学校の部活動で、バレーボール部に所属している。そこでは、仲間と協力しながら同じ目標に向かうことの大切さを学んだ。時に、自分たちの目指している目標に熱意の差が出てきた。そこで意見がぶつかることもあったが、話し合いを重ねることで、相手の立場に立って理解し、自分の考えを伝える能力が身についた。この経験は、AIには出来ない人間らしい成長に繋がったと思う。

そのため、高校生活ではICTを便利な道具として活用しながらも、人との交流や学校行事に積極的に参加していきたい。仲間とたくさんの経験を積むことで、豊かな心を育むことが出来る。私はそんな高校生活を送りたい。

3-⑦

「自分で考える力」

私は文章を書くことが苦手だ。そんな中、ここ最近よく耳にするチャットGPTなどの生成AIサービス。私は以前から、このようなサービスのことをあまり良く思っていなかった。書くことが苦手でも、自分で何かを最後までやり遂げるというのは、気持ちの良いものだと考えていたからだ。

夏休みの前、私達には読書感想文の宿題が課せられた。そこで友達がこう言った。「まあ、AIに考えてもらえばいいか。」その友達が、本当にAIを使ったのかは分からないが、私は「本当にそれでいいのかな」と少しモヤモヤした。

AIは、正しく使えばとても便利なものだ。だが、あまり頼ってばかりいると、自分で考えることを放棄してしまうことにも成る。高校生活でも、AIに頼りすぎず、自分のことは自分で考える習慣を身に付けることが大切だ。この先の受験、そして高校生活で生かせるよう、今のうちから心がけていきたい。

3-⑧

「国語で“AI”と“私”？」

「チャッピー」今の世の中、一番注目されていると言っても過言ではないAIの内の一つ。メリットとして「誰でも使える」「何言っても必ず答えてくれる」などがある。だから、私の学校では国語の授業で使用した。これを伝えると必ず頭にハテナを浮かべ、「国語でどう使うの？」と聞かれる。それもそうだ。勉強とAIは、関係の薄い存在だと思われていたから。答えを聞けば、ほとんど正しい答えを教えてくれる。それをクラスの大半が使ったらどうだろう。

AIを使えば、より良い情報を得ることが出来るかもしれないが、先に述べたものに対して「自分を失う」「自分のためにならない」とデメリットが出てくる。そんな、自分を持っていない人が集まっても楽しくない。だから、使い方は考えなければならないと思った。部活もそうだと思う。AIにアドバイスをもらっても、行動するのは自分。人しか行動できない。

正しく使い、自分で動くことを楽しみたい。